

# J A 自己改革推進レポート（J A 鳥取いなば） 11月号

## 1. 郡家保育所の園児がサツマイモ収穫体験

郡家支店は10月7日、支店行動計画の一環として郡家保育所の園児25人を招き、サツマイモ収穫体験を八頭町のほ場で開いた。支店職員9人、同支店女性会会員4名も参加し、園児をサポートした。

収穫体験では同J A 営農指導員がサツマイモ掘りのコツを説明。園児はサツマイモのつるをたどり、宝探しをするように収穫を楽しんだ。

園児は大きいサツマイモを掘り当てると「大きい」「早く食べたい」と歓声をあげて喜んだ。



## 2. あんぽ柿の皮むきスタート

J A 鳥取いなば広域あんぽ柿加工施設で、特産の柿「西条」を使った「あんぽ柿」の加工が10月18日にスタートした。

加工施設では専用の乾燥機をフル稼働させ、とろりとした食感と濃厚な甘さに仕上げる。この季節を代表する人気の商品として需要が高く、東京・大阪・京都・広島などに出荷している。

同J A の谷脇営農指導員は「生産者の所得増大につながるようしっかりと加工作業に取り組みたい」と意気込んだ。



## 3. 光合成促進機を導入。収量増へ

鳥取市にある（株）メイワファームは10月28日、所有するイチゴハウスに二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）濃度を適度に高め、光合成を促進する、LPガス使用の「光合成促進機」を導入した。設置はJ A 鳥取いなば資材課や同J A いなば燃料センター、全農とっとり県本部が連携した。

促進機はLPガスを燃焼させ、送風機でCO<sub>2</sub>を均一に、イチゴに適正な濃度で循環させる。厳寒期の収量と販売金額の大幅増に期待が高まる。

いなば燃料センター高田本部長は「県内でも導入しているところは少ない。生産者の所得増大につながるようイチゴ以外の品目にも導入し、普及拡大したい」と話した。



#### 4. らっきょうの工程学ぶ

鳥取市立用瀬小学校の3年生39人が10月16日、福部町の「らっきょう畑」と「らっきょう加工センター」を見学した。

見学会では福部支店上原支店長らが、10月下旬から始まる開花や、加工品の甘酢漬けの工程などを説明し、JAを代表する特産「砂丘らっきょう」について理解を深めた。

上原支店長は「見学を通してらっきょうを好きになってもらい、地域農業に興味を持ってもらいたい」と話した。

谷口教諭は「普段自分たちがなにげなく食べている、特産物の工程や生産者の苦勞、思いを感じてほしい」と話した。

